

(算数)

特性をもつ児童への学習支援

～ 人とつながる力を育む ～

大阪 市立 弘済 小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「学力の向上と自立に必要な力の育成」を設定し、「小中一貫した教育の推進」「学力の向上」「道徳心・社会性の育成」を三つの柱として、日々の教育活動を展開している。

本校の児童の現状と課題を考えると、幼少期の体験から「愛着障がい」にみられる症状を生活場面や学習場面で見せることがある。また発達症を抱える児童が大半を占めているため、わかりやすい授業をめざしながら、コミュニケーション力や感情のコントロールなど、生きる力を身につけることに力を入れている。愛着のもとである「人とつながる力」に視点をおき、数年前から、「つながる力向上プログラム」を導入し、アサーションやアンガーマネジメント等に取り組んできた。コグトレにも継続的に取り組み、認知機能の強化も行っている。指導者全員が児童一人ひとりの特性を理解し、児童に応じた対応を共通理解していった。些細なつまづきによって大きな怒りやイライラを引き起こしていた児童が、少しずつであるが、落ち着いて学習できるようになってきた。

そして、本年度は、研究主題を「特性をもつ児童への学習支援」とし、さらに「人とつながる力を育む」を副題として、情緒の安定があつてこそ、学習への意欲が向上するという視点をもって研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

本校の児童は、さまざまな生育環境の下で育っており、学習面や情緒面などで多くの課題を抱えている。学校に通えていなかった時期も児童それぞれに異なっており、少人数であっても個々に応じた学習支援が必要である。また、わからないことや頼れないことに不安や怒りを感じ、情緒を不安定にする児童もいるため、学校生活全般の支援も必要である。

このように、さまざまな課題を抱えている児童が主体的に学習に取り組み、「わかった!」「楽しい!」と思えるような授業づくりができるように、必要な支援の方法を算数科の授業を通して研究していく。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 主体的に学習に取り組むための工夫

- ・見通しを全体で共有し、自力解決ができるようにする。
- ・ヒントカードを活用したり、きめ細やかな机間指導を行ったりすることで、自分でできたという自信につなげる。

視点② 3段階での振り返りの場の設定

- ・学習の終わりに、3段階（「わかった」「まあまあ」「わからなかった」）の振り返りをする。
- ・宿題の内容や次時の授業内容の工夫をしていくことで、わかる授業をつくる。

視点③ 個に応じた支援の工夫

- ・児童一人ひとりの特性を理解し、個に応じた教具をつかう。
- ・児童全員が、安心して学習に取り組める環境をつくる。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・アンガーマネジメント、アサーションの学習では、児童の実態に応じた年間計画を立て、効果的に行ってきた。継続して行うことで相手の気持ちを考えられるようになったり、相手を思いやる言葉がけができるようになったりして、少しずつではあるが適切な人間関係が築けるようになっている。また、アンガーマネジメントの学習で使用した掲示物を廊下に貼り、児童がいつでも掲示物を見られる環境をつくっている。イライラしたことがあった時には掲示物の前で立ち止まり、「深呼吸して落ち着こう」「今の怒りの温度は5くらいやな」などと、自分の中の怒りというものを意識して対処をしようとする姿も見られる。
- ・週に1度のコグトレタイムでは、認知機能の強化をめざして、コグトレオンラインを計画的に行った。コグトレオンラインを取り入れることで、楽しく一定時間集中して課題に取り組んでいた。
- ・児童間の大きなトラブルで授業を抜けたり、授業に入れなかったりする児童は少なくなった。しかし、どうしても気持ちが落ち着かない児童に対しては、クールダウン室を活用し気持ちを落ち着かせる時間をつくっている。人手が足りないときは中学校と連携をし、人を代えたり場所を代えたりしながらイライラの原因の振り返りを行ってきた。そのことにより、児童が落ち着いて自分の行動を振り返ることができ、次からの行動を改めることができている。
- ・校内全体で個に応じた支援方法を工夫したり、定期的に児童理解の研修を行い、児童の特性に応じた指導方法を考えたりと、大人が児童に寄り添い、認め、受け入れることで児童が落ち着いて学習ができるようになってきた。

(2) 今後の課題

- ・本校ならではの自然体験学習や中学校との交流、全校児童・生徒での運動会、学習発表会などの活動を通して、多くの人と関わりながら成長していける場を設けてきた。そのことで、児童にとって安心できる人間関係が広がってきている。しかし、年度途中からの転入が多いという本校の特徴から、転入により一気に集団が変わってしまい、児童が不安定になることもある。児童によっては、指導者を試すような間違ったやり方で「先生、もっと僕を見て」「もっと相手して」と関わりを求める児童もいる。間違った関わり方でしか気持ちを表現できない児童に対して、きつい言葉で叱るのではなく、正しい関わり方を根気強く伝えていく必要がある。様々な特性をもつ児童の理解のために、今後も計画的に教職員研修を行い実践をしていく。
- ・引き続き、アンガーマネジメントやアサーション、コグトレなどを計画的に行い、児童がより良い人間関係を構築できるように支援をしていく。
- ・コグトレではオンラインを使うことは楽しい反面、児童の実態に合わない課題もあり、実施の方法はまだ模索している段階だと言える。昨年まで取り組んできたプリントを使った認知機能強化トレーニングや認知作業トレーニングを取り入れたコグトレと併用していくことで、児童が効果的に集中できる時間を確保していきたい。
- ・今後も児童にとって「安心」「安全」な学校に保つために、小学校だけでなく中学校、施設の職員とも連携を図りながらこれまで以上に取り組んでいきたい。